

55 川路聖謨植桜楓の碑

—川路さんは奈良公園の生みの親です—

桜の季節が過ぎ、青葉若葉の季節になりました。この前は、佐保川堤にある川路桜を紹介しましたが、今日は川路聖謨(かわじ としあきら)さんのことをお話しましょう。

川路さんは、1801年に下級役人の子として生まれましたが、幕府に勤めてからその実力が認められ、1846年から5年ほど奈良奉行を務めています。その間、奈良の人たちのためになる政治をして、慕われました。また、東大寺や興福寺、多くの奈良の人たちに協力を呼びかけ、私財も提供して奈良公園から佐保川の堤防にまで数千本の桜と楓(かえで)を植えています。これは今の奈良公園の基礎となりました。このことは、奈良公園の五十二段

の上にある「植桜楓之碑」に記されています。その後、大坂町奉行へと転任されますが、そのときには大勢の人が見送りに出たということです。



こんなことを教えてくださったのは川路聖謨を讃える会会長の孝田有禪先生です。先生のお話に感動した私は、幕末に日露和親条約締結交渉という重要な仕事をやりとげたという川路さんのあしあとを追って、沼津市立造船郷土資料博物館(当時は戸田村立でした)を訪ねました。そのときのことを、私は次のように書いています。

1 川路聖謨さんがされたお仕事

今から150年前、ペリーと前後してロシア帝国からプチャーチンの

率いる艦隊が日本との通商を求めて下田にやって来ました。このとき、折衝に当たったのが川路聖謨さんたちでした。奈良奉行を務めたあと、こんな大きな仕事をされたのです。

2 戸田村に造船の博物館があるのは

日本にやってきたプチャーチンの船は安政大地震のときの津波で破損、修理をすることになり、戸田（へだ）に回航するのですが大波を受けて沈没します。国に帰れなくなったプチャーチンは船を造ることを願ひ出ます。川路さんは、なかなか「うん」と言わない幕府の偉い人を説得し、プチャーチンと日本の船大工は日本で初めての洋式の船を作りま



した。こうした中で、川路さんの人柄に感銘したロシアの人たちは、でき上がった船に「へだ号」という名前をつけます。そして、日露和親条約が締結されます。伊豆の小さな村に過ぎない戸田ですがロシアとの交流は今も続いています。

そんな川路さんを讃える会が奈良に生まれました。お誘いを受けて私もメンバーになりました。

歴史が大好きで郷土クラブに入っている静香さん、奈良公園を歩き、そんな昔のことを思い起こしてみませんか。

(平成 23 年 5 月・小学校 6 年生の静香さん宛)

スポットの案内

植桜楓之碑は、猿沢池から興福寺五重塔に向かって五十二段と呼ばれる石段を登りつめた所にあります。なにしろ古いものですから、彫

ってある字が読みにくくなっていますので、少し前に川路聖謨さんのことをみんなに知らせたいと考える人々によって新しい解説板が立てられています。

理科のワンポイント「奈良公園の生物」

明治13年2月14日に開設された奈良公園は、正式の名前を「奈良県立都市公園 奈良公園」といい、総面積は502.38haで平坦部が39.82ha、山林部が462.56haです。ここには約1200頭のシカをはじめとしてタヌキ、イノシシ、ムササビ、リスなどが住んでいます。樹木はというと、マツ、サクラ、モミジ、ナンキンハゼ、アセビ、スギ、サルスベリ、ウメ、クスノキ、ヒノキなどが多く、平坦部には87種、約10000本、山林部は207種が生育、本数は数え切れません。

1982年3月に発行された「奈良公園史〈自然編〉」や1994年3月の奈良教育大学による「奈良公園の自然」などのデータによると、哺乳類は20種以上が生息しているだろうと考えられます。鳥類は、1年中見られる留鳥、春にやって来て秋には去っていく夏鳥、公園内で越冬する冬鳥、春秋の渡り期に通過していく旅鳥、一時的にやってきた漂行鳥などを合わせて100種ということになるようです。

上にあげた樹木以外の植物はというと、これは大変な数です。被子植物離弁花類は528種で、ナズナなどアブラナ科の植物、シロツメクサ・スズメノエンドウなどマメ科の植物、サクラやウメなどのバラ科の植物など82科の植物があるそうです。続いて合弁花類の植物34科256種、単子葉植物は23科234種、シダ植物は128種だそうです。

こんな豊かな自然いっぱいの公園が奈良県立都市公園なのです。恵まれた町だといえますね。